

平成 29 年度

第 62 回 長野県中学校連合教科研究会

社会科

I	研究テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	実践発表校一覧、指導者名・・・・・・・・・・・・・・・・	1
III	実践発表と協議内容・・・・・・・・・・・・・・・・	2～7
IV	本年度研究会の反省と来年度の方向・・・・・・・・	8
V	あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・	8～9

I 研究テーマ

「社会的事象に対する見方や考え方を培い、表現していく社会科の学習はどうあったらよいか」

II 実践発表校一覧、指導者名

- 第1分科会 指導者 宮下 正史 先生 (北信教育事務所指導主事)
 世話係 武井 正樹 (信州大学教育学部附属長野中学校)
- 第2分科会 指導者 畑 邦弘 先生 (東信教育事務所主任指導主事)
 世話係 矢澤 拓真 (信州大学教育学部附属長野中学校)
- 第3分科会 指導者 田中 篤 先生 (中信教育事務所指導主事)
 世話係 竹内 克紘 (信州大学教育学部附属松本中学校)
- 第4分科会 指導者 松澤 和憲 先生 (南信教育事務所指導主事)
 世話係 荻原 拓 (信州大学教育学部附属松本中学校)

【第1分科会】

発表順	地 区	番号	校 名	実 践 発 表 内 容
1	松本	14	鉢盛中	中2「鉢盛中学校区～なぜicityは山形村にできたのか?～」(地理)
2	長野上水内	16	広徳中	中3「政治参加と選挙」(公民)
3	安曇野	6	三郷中	中3「どうする!? 日本国憲法」(公民) 宮澤
4	松本	25	附属松本中	中3「開智学校から見える明治維新」(歴史)
5	長野上水内	32	附属長野中	中1「中世へタイムスリップしよう」(歴史)
実践発表者5名、その他2名 計7名				

【第2分科会】

発表順	地 区	番号	校 名	実 践 発 表 内 容
1	諏訪	6	下諏訪社中	中2「関東地方」(地理)
2	松本	10	菅野中	中3「領土をめぐる問題」(公民)
3	下伊那	8	阿南第二中	中3「地方自治」(公民)
4	上高井	1	小布施中	中3「変化の中の日本(冷戦後の日本の役割)」(歴史)
5	長野上水内	32	附属長野中	中1「中世へタイムスリップしよう」(歴史)
実践発表者5名、その他2名 計7名				

【第3分科会】

※少数教科会(山間地・小規模校)に向けて

発表順	地 区	番号	校 名	実 践 発 表 内 容
1	下伊那	7	阿南第一中	中1「アフリカ州」(地理)
2	更埴	10	戸倉上山田中	中3「現代の民主政治」(公民)
3	長野上水内	21	鬼無里中	中3「過疎化の進む鬼無里地区で企業の経済活動はできるのだろうか」(公民)
4	松本	25	附属松本中	中3「開智学校から見える明治維新」(歴史)
実践発表者4名、その他2名 計6名				

【第4分科会】

※校種間連携, 教科間連携を踏まえて

発表順	地 区	番号	校 名	実 践 発 表 内 容
1	安曇野	6	三郷中	中3「どうする!? 日本国憲法」(公民)
2	長野上水内	25	飯綱中	中1「ヨーロッパ州」(地理)
3	下伊那	5	根羽中	中3「マスメディアの役割」(公民)
4	松本	25	附属松本中	中3「開智学校から見える明治維新」(歴史)
実践発表者4名、その他3名 計7名				

Ⅲ 実践発表と協議内容

【第1分科会記録】

1 鉢盛中学校 黒沢美雪先生の実践発表

「社会的事象に対する見方や考え方を広げ深め合う社会科指導について」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・教師自身の「なぜ」「どうして」を出発点に、生徒たちが地域の地理的特色や変化を踏まえた上で、「郊外型大型ショッピングモール」を通して地域の将来像を考えることができた実践。
- ・総合学習が確立している学校では、地域学習を展開しやすいのではないか。

(2) 指導者からのご指導

- ・教師の疑問から教材開発を行うことを大切にしつつ、生徒の疑問と合致させるための手立ての在り方を考えていきたい。小学校の学習との系統性にも留意したい。

2 広徳中学校 吉澤孝志先生の実践発表

「社会的な知識を自分の生活に密接にできる社会科学習の在り方」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・概念学習になりがちな選挙制度を、新聞や選挙広報を用いてグループごとに調べ、発表し、投票行動をとるというシュミレーションを行うことにより、より多面的・多角的に考えることができた実践。
- ・今年度は、公民分野の選挙制度の学習と衆議院選挙が重なり、生徒には身近な学習となったが、政治的中立を確保した授業展開には気を遣う面が多かった。

(2) 指導者からのご指導

- ・総務省ホームページに掲載されている「指導上の政治的中立を確保等に関する留意点」を参考に授業を進めると分かりやすい。模擬投票の結果だけではなく、思考した過程を大切にしてほしい。
- ・主権者教育は、5年後10年後を見越して、どんな大人に成長してほしいかを考え、今つけるべき力を考えていきたい。

3 三郷中学校 宮澤人潤幸先生の実践発表

「他者の考えを批判的に考察しながら自分の考えを深めていく学びの在り方」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・憲法改正について、国民の命や基本的人権を守ることを踏まえ改正に対する他者の立場や根拠の違いに着目し、主体的に追究し憲法の本質を考えることができた実践。
- ・選挙同様、政治的な中立性を考えると授業実践が難しい側面が否めない。

(2) 指導者からのご指導

- ・思考が見えるように、付箋紙を用いてシートの上でやり取りする工夫がなされている。
- ・憲法改正の議論は、オープンエンドでよいのか、つけたい力があるのかを教師側が明確にもってきたい。

4 附属松本中学校 日下部知真理先生の実践発表

「歴史的な事象を自分事に引き寄せ、必要感・切実感をもって思考・判断することができる支援の在り方」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・地元住民からの多額の寄付で開智学校が建設された経緯と、当時の教育の実際を、自分の暮らしと結び付けながら、社会的価値を見だし、多様な見方考え方を基に、思考・判断した実践。
- ・開智学校以外にも、松本城の買い戻しや博覧会の開催など、明治初期の松本の風土を調べると、

開智学校への地域の思いを下支えする考えが見えてくるのではないか。

(2) 指導者からのご指導

- ・日常的に目にしている開智学校に、当時の人々の営みがあり歴史が息づいていることを体験できる大切な学びがある実践。
- ・今回の実践を窓口に、明治初期の全国的な教育の状況はどうだったのかを考える「つながり」の学習へと展開してほしい。

5 附属長野中学校 武井正樹先生の実践発表

「それぞれの視点から見た歴史的事象を相互に関連させる際に、視点同士をどのような見方・考え方を働かせながらとらえていったのかを明らかにする手立ての在り方」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・中世を4つの視点に分けてそれぞれを比較・関連させる際に、矢印や線をつないで見方・考え方を可視化しながら中世を大観した実践。

(2) 指導者からのご指導

- ・資料を生徒たちが選んで考察していく過程を大切にしてほしい。
- ・思考を深めるときに何を根拠にして変わっていくかを見取っていききたい。個々の生徒の思考の変化を丁寧に分析していきたい。

文責 信州大学教育学部附属長野中学校 武井正樹

【第2分科会記録】

1 下諏訪社中学校 松本和樹先生の実践発表

「社会的事象をより実感を伴ってとらえ、社会的事象の意味を考える社会科学習にするための授業作りについて」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・一人の生徒の意識を大事にした授業作りをする上で「何で」「どうして」と思える環境づくりや生徒の意見を大切にしたい授業を作りたい
- ・リニアという未知数のものを北陸新幹線による過去との影響と比較する実践は有効に感じる。
- ・関東との学習で据えた「他地域との結びつき」という視点をどうリニアと結びつけるかが教材研究のやり甲斐のある点だと感じる。

(2) 指導者からのご指導

- ・関東地方の学習なのか中部地方の学習なのか混在してしまう。リニアによる影響受けようとしている関東地方という視点を明確にした授業作りが必要である。
- ・本単元は他地域との結びつきを中心に据え、歴史、産業、生活といった7視点をつなげて考えることで「日本の諸地域」における学習の深まりがみえてくる。

2 菅野中学校 市田祐基先生の実践発表

「領土をめぐる問題の扱いについて」

(1) グループ内で話し合われたこと

- ・日本の主張と韓国の主張を明確にすることで日本固有の領土であることを学習の本質としたい。
- ・韓国との問題で挙げられる「歴史認識」「竹島問題」「賠償問題」といった解決をしないでほしい優先順位を決めだして考えたが、この場面は事実認識の場面でも良いのではないか。
- ・文化、経済、オリンピックなど、韓国と日本との交流によってもたらされる影響をさらに学習に加えていくことで、領土に限らず友好的な解決の糸口を考えられるのではないか。

(2) 指導者からのご指導

- ・日本は領土について考えない民族である。だからこそ、領土にかかわる授業をすることは大変意

味のある学習である。

- ・代案として、日本と韓国との主張の不一致や対立がある現状の中で、公正・効率の視点を入れて、どう合意へと結びつけるかをクラスで考える授業を考えてみるのはどうだろうか。

3 阿南第二中学校 中村広登先生の実践発表

「多面的・多角的に考察する社会科学習について」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・人ごとではなく、自分ごととして地方自治について考えられる良さがレポートから分かる。町の広報を使ったりゲストティーチャーを呼んだりしたことは有効であった。
- ・現状を効率と公正で判断することは難しい。優先順位をつけるのではなく、ストーリーで授業を考えていくと深まりや変容が見られることが分かる。
- ・他地域との比較をさらにしていくことで、より町にあった活性化策が見えてくるのではないかな。

(2) 指導者からのご指導

- ・教える時間と事例を示して考える時間をつくっていくことが公民では必要となる。問いと答えをはっきりさせていくことが大事。
- ・生徒の意識から新たに第7時をつくり、授業を展開させたことがよかった。人口の増減には自然条件と社会条件がある。内から人口を増やすための方策を考える時間となったのではないかな。

4 小布施中学校 長尾恭照先生の実践発表

「歴史学習の中で冷戦後の日本の役割をどう授業するか」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・タイの紙幣に日本の国旗が書かれていることは知らなかった。導入資料として用いたタイの紙幣は是非使ってみたい資料である。
- ・歴史の授業として扱う自衛隊やPKO活動をぜひ公民の学習につなげて考えたい。そう考えたときに単元展開の工夫も必要になってくる。
- ・国際社会の一員としての自衛隊の役割を考えることはとても難しい面も出てくるが、一人一人に考えさせることは重要だと感じる。

(2) 指導者からのご指導

- ・国際貢献のために私たち日本人に何ができるかを考えさせる一時間にしていきたい。日本が果たすべき役割を考える中で、本当に血を流さない国際貢献でいいのかというのが一つのテーマになる。
- ・自衛隊を歴史と公民で扱うのは盛り込みすぎである。生徒同士で考える時間をつくるには、公民の時間を利用して学習を深めていきたい。

3 附属長野中学校 武井正樹先生の実践発表

「歴史的な見方・考え方について」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・中世を一つの視点で捉えて大観することは興味深い。何に視点を置いて大観すべきかを考えていきたい。
- ・中世の捉えについて再考したほうが良いのではないかな。外国とのつながりに焦点をあてることが本当に中世の大観につながるのだろうか。

(2) 指導者からのご指導

- ・新学習指導要領に基づいて行われた授業作りである。移行期なのでさまざまな授業作りに挑戦して欲しい。
- ・農業生産の向上と鎌倉の仏教を結び付けて考えることが本当に正しいのか。より深い教材研究が

必要である。

- ・見方・考え方についての研究を各校で進めていただき、それぞれの学校で考える見方・考え方についての実践発表を来年度の連合教科会で行いたい。

文責：信州大学教育学部附属長野中学校 矢澤 拓真

【第3分科会記録】

1 阿南第一中学校 久野正弘先生の実践 ・ 討議内容

授業が講義式になってしまうことの反省から「主体的な学び」の実現のために、見通しをもたせることを大切にしたい。生徒同士が、かかわり合いの中で考えを深めていく姿を願ったが、実証授業では難しさを感じる場面もあった。

- ・アフリカに日本企業が進出している背景を様々な視点から追究することで、アフリカと日本とのつながりが多面的に見えてくるとおもしろい。自分なら「アフリカへの企業進出 賛成・反対」というテーマで取り上げてみたい。工場経営者など様々な立場に立たせた上で資料を与えたらどうか。同じ資料を根拠にしても、立場が違えば、語るものが違ってくる。

2 戸倉上山田中学校 町田祐介先生の実践発表 ・ 討議内容

役割演技の手法を取り入れ、「対立」が生まれるように役割カードの設定などを工夫した。複数の視点に基づいて話し合うことで、他者との合意形成に向かおうとする生徒の姿が見られた。

- ・自分たちの生活のどこに問題があるのかなど、具体的な事例から教材化することにも挑戦したい。
- ・架空の状況で議論をする中で、身近な地域の課題を話題にする生徒の姿もあった。地域のことを知らないという感想もあった。架空の状況から具体的事例につなげていく展開も可能。

3 鬼無里中学校 新井秀和先生の実践発表 ・ 討議内容

経済を自分のことのように実感しながら追究してほしいと願い、地域素材のおやきに着目し、教材化した。身近な素材を教材化したことにより、抽象的な経済の学習が、実感を伴う学びとなった。

- ・地域にある企業を取り上げて経済分野の学習をすることや、学習問題の立て方などが、大変勉強になった。生徒の意識のズレから設定していく展開を参考にしたい。
- ・戸上中の発表では立場を変える工夫があったが、立場もズレを生む要因となる。子どもの意識のズレを研究していくことのよさを学べる発表だった。

4 附属松本中学校 荻原拓先生の実践発表 ・ 討議内容

地域素材を生かし、体験的な学習を通しながら、国や庶民といった立場から、明治の諸改革について考え、その意義を自分の暮らしや今の社会とのつながりから理解する生徒の姿があった。

- ・一人の姿から学びの深まりを追究していくことは大切。中学校では教科会を大切に、学力向上の点からも、学びを揃えていくことも大切にしたい。
- ・歴史的分野において身近な地域の素材を取り上げるのは難しい。通史との関わりの中で、どう取り上げるのか。考えていきたい。
- ・生徒のこだわりが見られる。その子のこだわりを歴史を学ぶ意味を見出しているのではないかな。

5 長野県教育委員会 中信教育事務所指導主事 田中篤先生のご指導

阿南第一中学校のレポートから、主体的な学びを具現していくためのポイントを学んだ。問いの成立、見通しをもつ、振り返りの3点。問いを成立させていくために、発問を吟味したい。着目する視点を与えて、生徒が資料に目を向けられるようにしていく。戸倉上山田中学校は役割演技を大切にしていた。役割演技の価値として、多面的、多角的に考察することが可能になる。立場を変えて考

えていくことは、自ずと多面的に考えることにつながっていく。立場を変えて考えることの価値を、子どもたちに自覚させていくことが大切。鬼無里中学校、附属松本中学校のレポートには、生徒のくらしと結びつけながら、という点に共通点があった。社会的事象は大人社会の出来事。身近な地域の素材を用いるということは、遠くにあるものを理解していく価値がある。遠くにあるものを自分に引き寄せるためには、問いが大切。どちらも考えたくなる問いが成立していた。自分の認識とのズレがあるから考えたくなる問いが成立する。松本中の今後の課題は、ねらいをきちんと考えること。明治という時代の特色を子どもたちはきちんと捉えられているかどうか。教師の側は、明治をどういう時代として教材研究しているか。

文責：信州大学教育学部附属松本中学校 竹内 克紘

【第4分科会記録】

1 三郷中学校 内川啓先生の実践発表

「自ら社会的事象に対する見方や考え方を培い、表現していく社会科の学習はどうあったらよいか」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・「平和主義」「新しい人権」を論点に、憲法改正に対する自分の立場を問う授業を实践。単元を通して、憲法と国民生活を結び付けたり、友と話し合ったりしながら、自分ごととして主体的に追究し、憲法の本質をとらえながら判断する生徒の姿が見られた。
- ・生徒が考えるための根拠となる資料の用意の仕方、社会情勢との関連のさせ方、自分の見方・考え方の変容を自覚できる教材や評価の仕方などについて話し合いがなされた。1時間の最後に自分の考えをじっくり振り返る時間を確保していくことの大切さについて再認識された。

(2) 指導者からのご指導

- ・思考・判断型の単元の学習問題を設定して追究する授業展開には、生徒たちには底に流れる問いがあるので、1時間1時間に意味がある学習となる。また、単元の最後に何がわかればよいか明確になり、生徒も自分で関連させたりまとめたりすることを積み重ねることができる。
- ・思考・判断型の学習問題では、事象の本質に迫れ、概念的知識の獲得につながるができる対立軸を立てることが大事にある。「憲法は簡単には変えられない」「でも時代は変化している」という対立軸で展開することで、より憲法の本質に迫っていったのではないかと。

2 飯綱中学校 小林巧実先生の実践発表

「友との関わりの中から、自分の考えを広げたり深めたりする学習のあり方について ～授業構想メモを活用した、日々の授業実践を通して～」

(1) グループ内で話し合われたこと

- ・学習の到達点、1時間の学習問題、授業での手立てを明確にした授業ができるように、15分程度で書く「授業構想メモ」に取り組んでいる。イギリスのEU離脱の是非を問う授業では、根拠となる適切な資料の用意ができ、EUの利点・課題点を基に自分の考えをまとめる生徒の姿が見られた。
- ・生徒につける力を明確にするため工夫、「授業構想メモ」を継続させるための工夫、日々の授業のストックの仕方など、日々の授業改善のしかたについて話し合いがなされた。また、生徒の自己評価の場面を設けることで、評価が明確になるとともに、さらなる授業改善につながっていく。

(2) 指導者からのご指導

- ・日々の授業改善を積み重ね、それを毎年繰り返している取り組みはどの学校も見習いたい。授業構想メモは1時間の授業の主眼となっている。その積み重ねを基に単元構想につなげていきたい。

- ・授業改善のPDCAはまずやってみることから始まる。先生方が挑戦をしていくことで、そこで得た課題を次に生かし、少しずつでも力を高めていってほしい。
- ・新学習指導要領には「選択・判断して構想する」というねらいがある。思考・判断型の学習問題で生徒たちにどこまで追究・判断させていくかを考える一つの拠り所となる。

3 根羽中学校 柳沢知奈先生の実践発表

「主権者の自覚を持たせる授業の工夫 ～“よりよい社会”を主体的に語るために～」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・「主体的な主権者」の育成を目指し、学校全体の様々な場面で新聞の活用に取り組んでいる。日常的に新聞に親しみ、言葉調べや読書等へ学びを広げていったり、社会の動きやそれに対する自分の考え、よりよい社会について自ら語ったりする生徒の姿が見られるようになってきた。
- ・新聞は、社会をわかる喜びや社会とのつながりを感じることができる教材であるが、新聞記事そのものは生徒には難しく、安易に使うことは危険である。生徒が新聞を読み込めるよう、読み方指導や複数紙比較の視点、他教科との連携といった教師の支援が肝要であることが再認識された。

(2) 指導者からのご指導

- ・生徒が複数紙を読み比べられていることはすごいこと。新聞のなぜ複数の新聞社やテレビ局があるのかに焦点を当てることで、マスメディアの役割や意味を考えていくことができる。また、子どもたちの問いを立てていくことで、学習課題をしっかりと据えたい。
- ・「チーム学校」の発想でのカリキュラムマネジメントが大切。「どのような子どもを育てたいか」を職員で明確にして共有し、学校の活動の核となるものを見定め、全職員で取り組んでいきたい。

4 附属松本中学校 荻原拓先生の実践発表

「自分の暮らしと結び付けながら社会的事象の価値を見だし、多様な見方・考え方を基に思考・判断・表現することができる社会科の学習」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・歴史的な事象を複数の立場から捉え、今の自分や社会とのつながりを考えられるよう、通史と地域の文化財を関連させた授業に取り組んだ。開智学校の建設経緯を実地調査などで調べながら、明治維新期の歴史的な事象や身近な歴史遺産の意味を考え、評価し直していく生徒の姿が見られた。
- ・地域教材を活用することの意味や方法について話し合われた。社会について考えるきっかけになりやすく、その教材化は学校の財産になるが、そのためには学校と行政の連携や、粘り強い教材研究の姿勢が必要である。また、小学校と中学校の連携のあり方についても提起された。

(2) 指導者からのご指導

- ・地域教材を活かしながら時代の特色を捉えていくには、通史の単元とともに小単元を組むことや、全国的な地域と比較していくことが有効である。その中で、地域で生活していた当時の人々の思いを考え、多角的に時代を捉えられていけるとよい。
- ・小学校3、4年生は、問いをもち、具体的なことや人々の工夫について学習していくことを通して、自分の目に見えていることの奥にあるものをとらえ、事象にしていく。5年生では国土、6年生では歴史と、対象との距離が遠くなり、徐々に抽象的な学習になっていくが、そこには3、4年生での見方・考え方が生かされる。中学校では、なぜそのような制度があるのかといった、事象の意味や役割を考えていくことが大事であり、それが概念的知識や汎用的な知識となり、自分とのつながりとある。

5 教科間連携，校種間連携についての協議

参会された先生方から，各校での小中学校連携の状況を報告し合った。日常的に情報交換をしている学校がある一方で，小中間での情報交換が十分でなかったり，互いの取り組みの見えづらさを感じたりしている先生もいらした。小学校の先生のご参加もあり，小中両方の立場から意見交換がなされた。小学校と中学校それぞれの学びに関心をもち，校種間のつながりを意識した社会科の授業づくりに取り組むことの必要性を，先生方で共有できた分科会となった。

文責：信州大学教育学部附属松本中学校 荻原 拓

IV 本年度の反省と来年度の方向

項 目	内 容
○研究テーマについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの参加者が「良い」とする意見が多かった。テーマは広く設定し，どの学校の研究にも対応できるものであると良いというお考えの先生方が多かった。
○本年度の研究の成果と来年度の研究の方向について	<ul style="list-style-type: none"> ・「見方・考え方」にかかわる方向で良いが，新学習指導要領を意識した言葉にしていく必要がある。（「社会的な見方・考え方」など） ・「見方・考え方」を具体的にどうするかということクローズアップしたテーマにしてもよい。「深い学び」「主体的」についても取り入れて良い。 ○基本的には本年度の方向で広いテーマを設定していく。テーマの表現を吟味していく。
○研究会当日の運営について（希望者による実践発表、分科会やワークショップの在り方等）	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート無しで参加できるのは，経験の浅い先生方でも参加しやすく良かった。 ・少人数の討議だったので，それぞれの先生方の考えがじっくり聞けた。 ・レポート討議の時間がもっとほしかった。（今回 20 分。30 分程度か） ・レポートの形式がなくなったが，逆に書き方に困り萎縮してしまう。また，レポート量に対して時間が少ない。形式を示してほしい。 ○ワークショップを設けたことや内容については概ね好評であった。その分，討議の時間が少なくなってしまったので，ワークショップを行うのなら，午後の後半からがよい。 ○レポートの形式はもっと簡易にして示すことができると良い。指導案のコピペになってしまっていることも否めない。
○研究会までの運営について（参加費、メール送付、Web ページからの申し込み等）	<ul style="list-style-type: none"> ・特に問題はなかった。 ・「事前にレポートが読めればよかった」，「たくさんするのは大変」という意見があった。 ○レポートも HP にアップし，事前に読める，ダウンロードできる仕組みにできるとよい。
○運営全般について	<ul style="list-style-type: none"> ・郡市運営委員の謝礼は不要。その分，参加費を減らすことに充てて良い。 ・司会者と記録者をなくしたのは，附属の先生方の負担増にはなったが，会の進行上は問題なかった。

VI あとがき

お忙しい時期に、県下各地からたくさんの先生方にお集まりいただき、生徒の学ぶ様子を基に指導のあり方について熱心に討議がなされ、多大な成果を収めることができました。また、より魅力的な研究の場となるよう、今年度は少数教科会に向けての分科会や教科間・校種間の連携をテーマにした分科会を設定しました。また、午後は信州大学教育学部の松本康先生、信大の学生で活動をしているSTAP（信州投票率上げようプロジェクト）のメンバーに、主権者教育の講義とワークショップを行っていただき、教師と生徒の両者の立場から主権者教育の授業について考えることができました。今後も先生方にとってより充実した研修の場にして参りたいと考えております。

終日にわたって全参加校の研究内容と今後の方向についての的確なご指導、ご助言をしてくださいました、指導者の宮下正史先生、畑邦弘先生、田中篤先生、松澤和憲先生に心より感謝申し上げます。そして、お忙しい中、日々の実践について語り、研究会を夷りあるものにしてくださった参会の先生方に心から感謝申し上げます。

来年度も多くの先生方に参加いただき、国語教育の在り方について熱心な討議がなされることを願い、また、先生方の今後の一層のご活躍を祈念申し上げ、御礼とさせていただきます。ありがとうございました。

委員長 荻原 拓
副委員長 武井 正樹